



新堀小だより

12月号

令和4年11月30日発

元気いっぱい 夢いっぱい みんなが輝く新堀小学校
新堀小3つの約束「心のコモったあいさつ 時を守る みんな仲よく」

<http://www.c-niiza.ed.jp/e-shinbori/>



日本の学校が世界に誇る授業研究



校長 若林 寿

【アメリカからの指導者】

先日、新堀小学校を会場に新座市内の小・中全23校（23名）の教員が集まり、指導者にイリノイ州（U.S.A）シカゴのデポール大学から高橋 昭彦氏をお迎えして、算数・数学の授業研究会が開催されました。授業研究にあたっては、3年3組の算数の授業を公開し、問題解決型の授業における指導法の工夫・改善について学び合いました。また、翌日には、新堀小の教職員へも研修をしていただき、世界から見た日本型の学校教育のよいところやアメリカの教育から学ぶべきことなど、これからの時代に必要な教育や授業のあり方について学びました。新堀小学校では、今後も引き続きご指導をいただくこととなります。



【日本の学校教育が誇る授業研究】

指導者のデポール大学教員 高橋 昭彦氏は、元々は日本の国立大学の附属小学校で教員をされていました。後にアメリカに渡り、イリノイ大学の大学院に留学し、数学の研究に取り組まれます。デポール大学の教員となつてからは、大学で教鞭をとる一方で、日本の学校教育の文化とも言える授業研究や校内研究を世界に普及させる活動を行っています。アメリカを含め諸外国の学校では、教員同士が授業を公開し、学び合い、よりよい授業のあり方について研究すること、つまり授業研究という取組は存在しません。私もドイツとアメリカの日本人学校に派遣されていたときにその事実を知り「じゃあ、どうやって教師は指導力を高めるの?」と

驚いた覚えがあります。しかし、高橋氏の普及・研究活動により、近年、日本発祥の授業研究が世界で取り上げられ、注目をされてきています。アメリカの学校は勿論のこと、ヨーロッパ、アジア、アフリカ等、世界各地の学校や教育機関から要請を受け、お忙しい日々を送られているそうです。私が勤務していたシカゴ日本人学校へも定期に来校いただき、現地校の教員の方々と合同で授業研究を行う機会を作っていただけていました。「イメージン授業研究（異なる言語の教員が合同で授業研究を行うこと）」を、日本の学校でもいつかやってみたいと思いました。

【イメージン授業研究】

パートナーズスクールのCAJとは、3学期にオンラインによる交流合同授業を予定しています。今年度は特定の学年で試験的に実施をすることになりますが、この取組が合同授業研究（「イメージン授業研究」）へと発展していくことを期待しています。

【授業研究とは?】

小・中・高等学校などの教員が、他の教員に授業を公開して意見を交換し合い、よりよい授業のあり方について研究すること。

【校内研究とは?】

校内の全職員が自校の教育目標に対応した学校全体の教育課題を達成するために共通のテーマを解決課題として設定し、計画的・組織的に解決を図る活動である。授業研究を活動の中心とすることで、教職員一人一人の指導力を向上させ、専門職としての教育的力量を高めるとともに教育課程を改善したり、子どもの望ましい発達を促したりする。

【本校の校内研究テーマ】

「自己の考えを広げ、表現する児童の育成」
※令和4・5・6年度新座市教育委員会委嘱研究

彩の国教育週間 新堀小保護者参加型公開授業

「自己の考えを広げ、表現する児童の育成」

自分の考えをもち、表現することができる。

根拠をもって考えを伝え合い、自分の考えを広げることができる。

※根拠（理由） 伝え合い（質問、応答） 考えを広げる（付け足す、考えを改める）

	個人	他者
低	考えをもつ	考えを知る
中	考えの根拠をもつ	考えを尋ねる
高	考えを深める	考えを比較する。